会

山行報告書

通算山行NO	NO・203A	報告者	加藤秀子
年月日	'01年 3月10日（土曜日）～	年 3月11日（日曜日）	
山行名	登山と スキー	天候	晴れ
山名	十石山（2525m）		
この山のセールスポイント	広くたおやかな峰とシラビソの森		
コース及びタイム	裾野13:40 ⇨精進湖道路⇨中央高速・甲府南ＩＣ⇨松本ＩＣ⇨国道158 号線 乗鞍温泉経由見晴峠⇨白骨温泉17:50 （テント泊）		
全走行距離	下土狩 ～白骨温泉 ＝ ２５０km		
参加者	ＣＬ後藤隆徳（54）・長岡浩一（41）・富岡 進（59）・加藤秀子（52）		

労山スキーネット交流会・浅草岳、守門岳の予定を季節はずれの大寒波のため、十石山に変更となった。交流会で三尾さんや頓所さんの華麗な滑りが拝見できると、指折り数えて待っていたのに前日になって変更とは・・・。あぁ～自然も酷な事をしてくれる。

でも嘆いている場合ではなかった。十石山など聞いた事がない。私が滑れる場所か否かそれが問題だ。急いで本棚をひっくり返して調べ始める。昨年、『静岡・山スキーの会』を結成し、山スキーのみを追求するようになってからは、山行がぐんぐんレベルアップしてついて行くのがやっとの状態である。毎回、不安に苛まれ挫折しそうになるが、その度叱咤激励されてなぜかメンバーの一人になっている。今回もそのパターンだ。でも行くからにはある程度の知識は頭に入れておきたいと、家にある資料を片っ端から探したが、高さのある山にしては三百名山にも載っていない。クッソーッ。行ってなんぼだと腹をくくった。

今日は、一昨年富士山・二ツ塚で知り合った三島在住の富岡さんが一緒である。今年二月富士山で再会し、偶然にも東吾妻も予定日が同じと、話が盛り上がった所で今回の山行となった。そして即入会してくれたのである。アルプスのオートルートも経験しているという経歴の持ち主だ。順調に走っていた車は、国道１５８号線から白骨温泉の分岐で雪の為に行き詰まり、引き返して乗鞍温泉から見晴峠経由で迂回する。硫黄の匂いが立ち込める白骨温泉に着く頃は雪がしんしんと降り始め、ゲート手前の空家の軒下を借りて手早くテントを設営。

『カンパ～イ！』先ず、富岡さんの入会祝いだ。ＣＬも長岡さんも、仲間が増えて嬉しそうである。山スキー談義で話が盛り上がり、来年はアルプスのオートルートにいくぞと気焔があがる。気がつくとテントのフライがパタパタと激しく音をたて、時折《ゴーッ》と凄まじい風の音が響く。そのうちテントが大きく波を打ち、頭を押さえられ腰が浮き、今にも持って行かれそうになる。多分低気圧が上空を通っているからだろう。今いってしまえば明日は天気はいいぞと、３人は平然と飲んでいたが、テント内での風の体験は初めての事でとても恐ろしかった。凄まじい風の間隔もだんだん遠のき、おそるおそる表に出てみると、風はピタッと止み月は煌々としている。ヘッドランプも必要ないほど周囲が明るい。明日はい～ぞッ～！先刻の怖さも忘れ、思わず叫んでしまった。

有意義な宴も時間がきておわり静寂な時の中で眠りにつく。静寂とは何と有り難い事かと感謝をしながら・・・。さてさて明日の滑りはどうなる事やら・・・。お・や・す・み

※トイレはゲート手前にプレハブトイレがあり使えた。

（投稿）

山名	十石山（2525m）	報告者	富岡進
01年3月11日 コースおよび タイム	起床3：00－出発5：00－休憩3回（7：15、8：30、9：40） 頂上11：０７－頂上小屋発11：35－昼食1800m－テント着14：17 白骨温泉発16：06－富士インター着20：40		
標高差	テント場1400m－頂上2525m ≒1100m	体力度	6,5,④,3,2,1
		技術度	6,5,④,3,2,1
走行距離	下土狩～白骨温泉＝250Km	展望度	6,⑤,4,3,2,1
参加者	CL後藤隆徳（54）　玄人好みの山スキールートだった。		
	加藤秀子（５１）　スプレーのワックスは効果少だ。		
	長岡浩一（４１）　今季最後のパウダー。イかった。		
	富岡　進（５９）入会初のツアー。今後ともよろしく。		

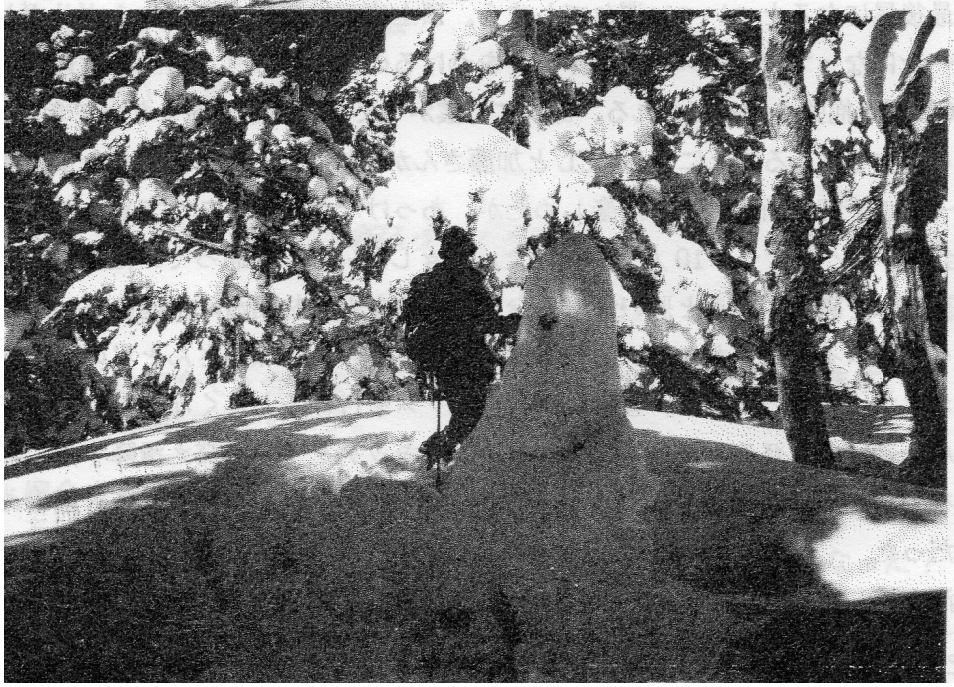
前夜の鍋汁のおじや、バナナ等の朝食をすませ、ヘッドランプを着けて出発。昨夜の暴風がうそのように風も弱く星空が見える。林道２つ目のヘアピンから急斜面を登り始める。木が密で加藤さんはザックにつけた赤旗の竿が引っかかり苦労している。ここを過ぎると新雪で美味しそうな斜面がでてくる。戻りの滑りが楽しみだ。しかし昨夜は入会祝いの「八海山」を飲みすぎたせいかなんだか調子が出ない。深雪のラッセルがきつい。やっと台地状の緩斜面にでたが1800m、頂上はまだはるか先だ。途中でユーモラスな雪のモンスターや天然の唐松を見つける。左に寄りすぎたコースを修正、再び急斜面にかかる。赤布がしっかり着けられている。右側はセバ谷で深く切れている。遥か遠くに焼岳が見えてきた。2000mを過ぎると穂高の岩峰も見えてきた。ヒマラヤ襞がうつくしい。左は乗鞍岳が雪煙をあげている。ついに樹林帯を抜け頂上直下の一枚バーンを目の前にした緩斜面にでた。小休止の後、バーンの左肩より頂上へ最後の登りにかかる。ラッセルを交代し最後尾になるとついつい遅れてしまう。頂上直下は緩やかとはいえガリガリのアイスバーンになっている。スキーアイゼンをつけるのに手間取り、頂上着は遅れてしまった。CLが辛抱強く待ってくれる。あいにく雲がでてきて展望が悪くなってきた。小屋には入らずすぐに下ることにする。CLと加藤さんが豪快に滑り出す。思ったより雪が重い。バーンの下部で新雪の滑りが楽しめたが、あっけなかった。ここで登ってくるパーテーに会う。３パーテー、10人ぐらいいた。我々しかいないと思っていたので意外だった。ラッセルを感謝されると悪い気はしない。昼食をとり林間滑降が始まる。木が密で雪も悪くスイスイとはいかない。滑りが悪いと思っていたら加藤さんと私のスキーは雪がダンゴになって着いていた。雪を剥がしワックスを付けると良くなった。1800m台地でシールを着け少し登る。再び林間をシュテム、キックターンを交え滑降する。沢筋の急斜面を少し登るともう登山口だった。下りにやや時間がかかったがほぼ計画書の時間どおりだった。

露天風呂で汗を流し、ビールで乾杯。天候に恵まれ、頂上も踏め久々に楽しいスキーツアーでした。

今回の反省　1、スキーアイゼンは早目に装着する　2、ワックスは固形が良い、山にも持参する。

(上) 雪斜面の美に思わず足をとめる

(中) スキー下降を頭に描いてみたりする



(下) 愛嬌のあるモンスターお目見え

(上) 十石山にて

(中) 十石小屋が見えた

(下) 今年も雪に浸った

シリーズ

美しき日本の山

会山行Ｎ０・２０３Ａ
０１・０３・１１

北ア・十石山を登る

モデル・長岡浩一・加藤秀子
富岡　進
カメラ・後藤隆徳